

# 強度行動障害のあるご利用者へ の取り組み ～ご利用者 Y さん～

社会福祉法人 天竜厚生会  
R6.12 赤石寮

(様式2)

日本障害者歯科学会第41回学術大会

# COI開示

筆頭発表者名：清水 厚紀

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・団体などはありません。

# ご利用者 Y さん

- ・ 年齢 19 歳 女性
- ・ 支援区分 6 行動関連項目 18 点以上
- ・ 新版K式発達検査 : 発達年齢 (DA) 2.2  
: 発達指数 (DQ) 18

発語は単語レベルで数語みられるが、応答は困難。簡易な形のマッチング、積み木、折り紙などの操作は一部可能。2歳前半レベル。

※個人情報について文書にてご家族の同意を得ております。

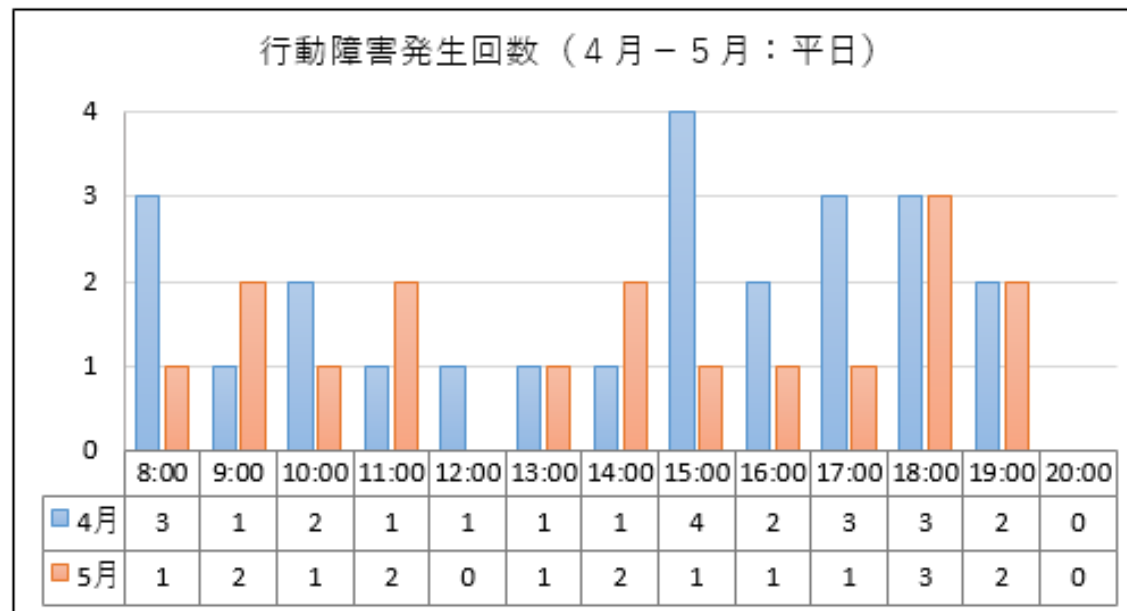


# 入所後に見られた行動障害

## ◎観察された様子

- ・周囲が騒がしくなると支援への拒否や玩具の物投げが見られる。
- ・他ご利用者に活動を邪魔されてから他害（ご利用者・職員）、物投げ、活動場所での失尿が見られるようになる。
- ・物投げ（玩具・イス）が激しくなり他ご利用者の脅威になる。次第に食事以外の時間をトイレ前の廊下に寝て過ごす時間が長くなり、激しい自傷を繰り返すようになる。
- ・居室にマットが敷いてあるのを見つけると、以降、居室から出ることを拒否するようになりました。布団に寝ていても自傷行為は繰り返されました。

行動障害発生回数（4月～5月：平日）



# 行動障害による破壊

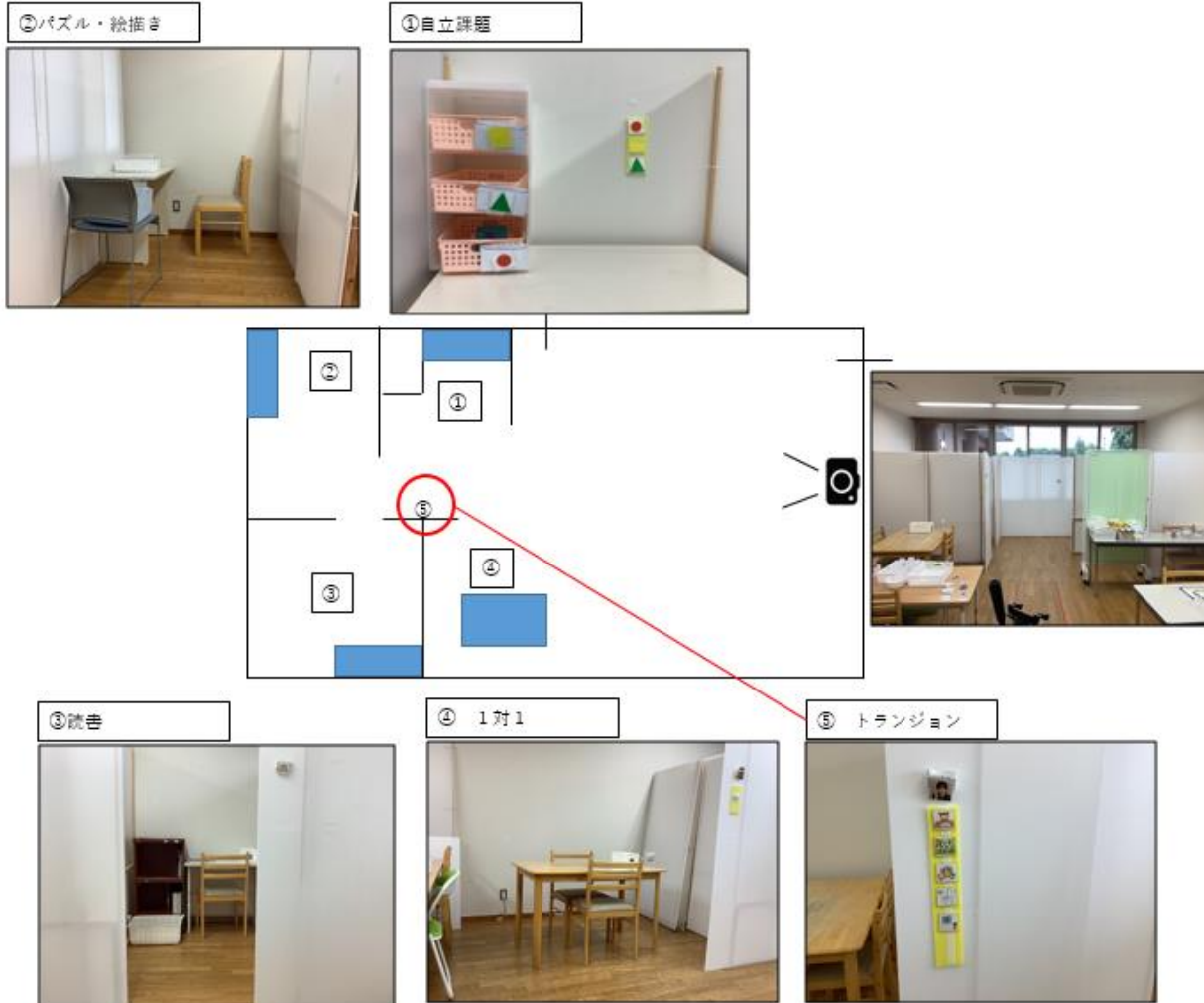


居室ガラスへの後頭部の打ち付けにより割れた強化ガラス

# 自閉症の特性から考える行動障害の起きる仮説

- ・ 周囲が騒がしくなる・他ご利用者に活動を邪魔される時に行動障害が発生
  - ⇒ 想像力の特性から、変化への対応が難しいのに周囲の環境が変化し不安になる。
    - ⇒ **変化の起きにくい環境**
- ・ トイレ前の廊下・居室に寝て過ごす時間が長くなる時に行動障害が発生
  - ⇒ 想像力の特性から、自分で予定を立てることが難しいのに余暇時間が長く、何をしたいのかわからない。
    - ⇒ **わかりやすい予定**
- ・ 他害（ご利用者・職員）、物投げ、活動場所での失尿が行動障害として発生
  - ⇒ 社会性の特性から、状況の理解が難しく、周囲から何を期待されているかがわからない。
    - ⇒ **場所・活動の整理**
  - ⇒ コミュニケーションの特性から、発信が難しく、どのように伝えたら良いのかわからない。
    - ⇒ **発信できるツール**

# 会議室での集中支援レイアウト



## 伝えたい6つの情報

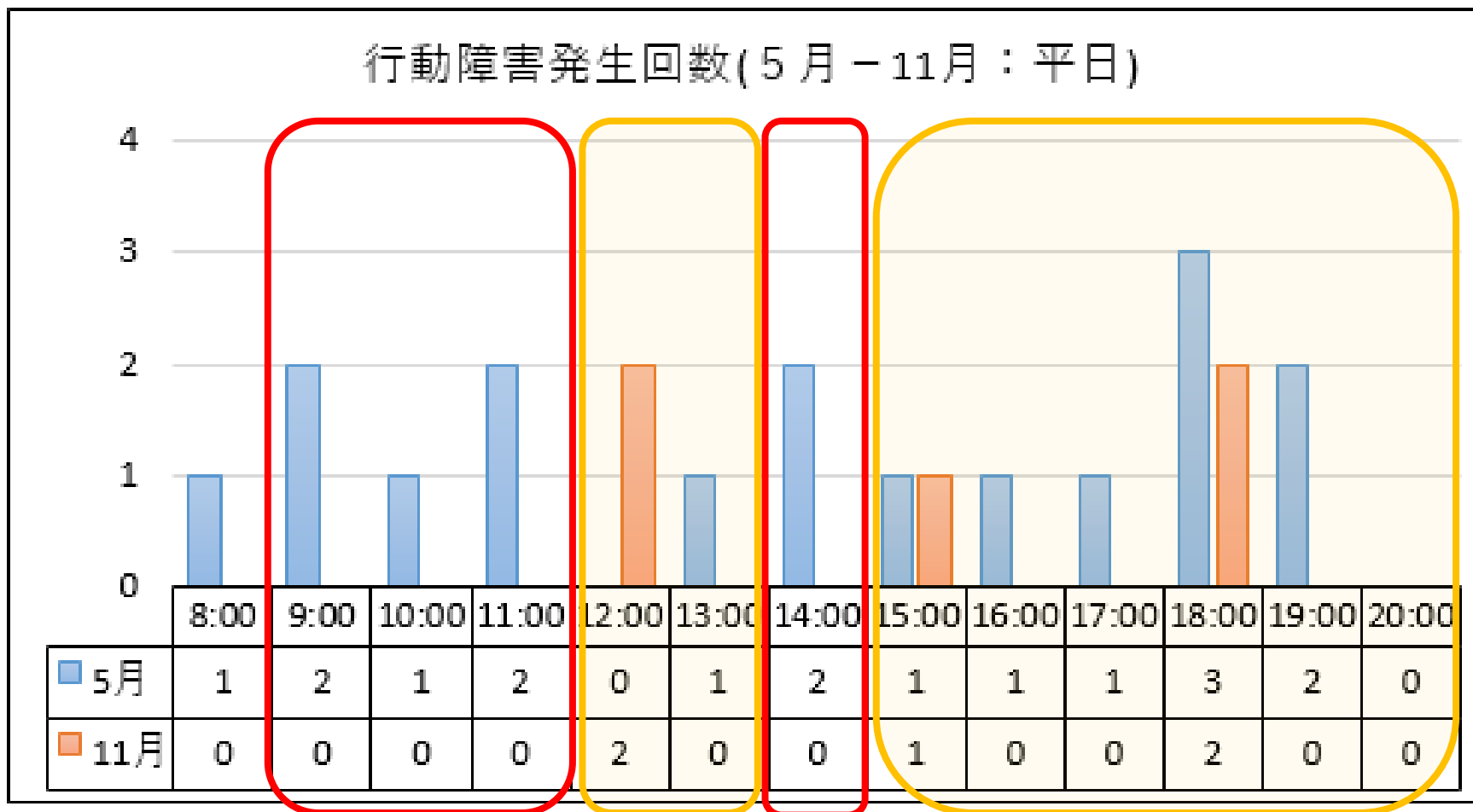
- ① 「いつ」：時間の工夫（生活の見通し）
- ② 「どこで」：場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- ③ 「何を」：方法の工夫（やり方・終わり・次）/見え方の工夫（ヒント・着目）
- ④ 「どのくらい」：方法の工夫（やり方・終わり・次）
- ⑤ 「どうやって」：方法の工夫（やり方・終わり・次）/見え方の工夫（ヒント・着目）
- ⑥ 「次は」：方法の工夫（やり方・終わり・次）



# 行動障害発生回数（5月⇒11月）

行動障害発生回数（平日）

	5月	11月
8:00	1	0
9:00	2	0
10:00	1	0
11:00	2	0
12:00	0	2
13:00	1	0
14:00	2	0
15:00	1	1
16:00	1	0
17:00	1	0
18:00	3	2
19:00	2	0
20:00	0	0
	17	5



# 行動の変化

活動開始時からの自立課題・塗絵・絵本・パズルに加え、缶つぶしの作業や洗濯干し・衣類たたみの生活支援を取り入れました。また、これまで拒否していた1対1の活動を拒否なく応じてくれました。1対1を受け入れてくれたことにより、新たにパッケージ作業や作品作りを教えることができ、活動の幅を広げることができました。



# 支援の目的は？

見通し（混乱や不安を減らす）



自立（自分ができることをやり遂げる）



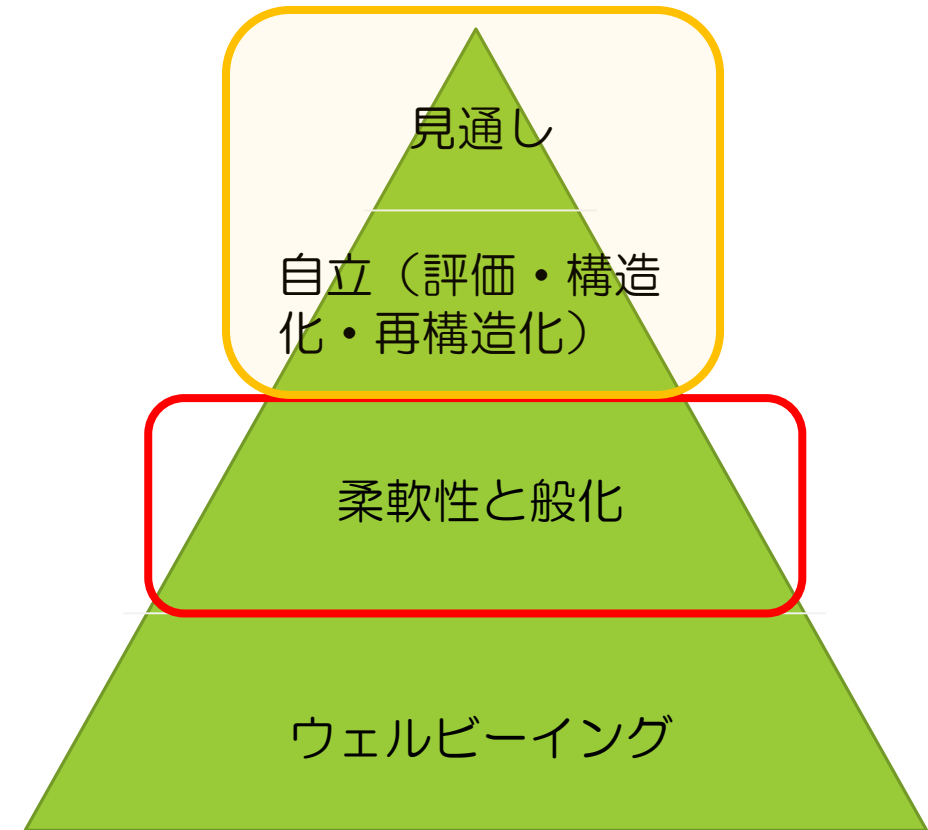
柔軟性と般化

- ・ 変化に対する認容性を高める
- ・ 生活の別の場面に広げる

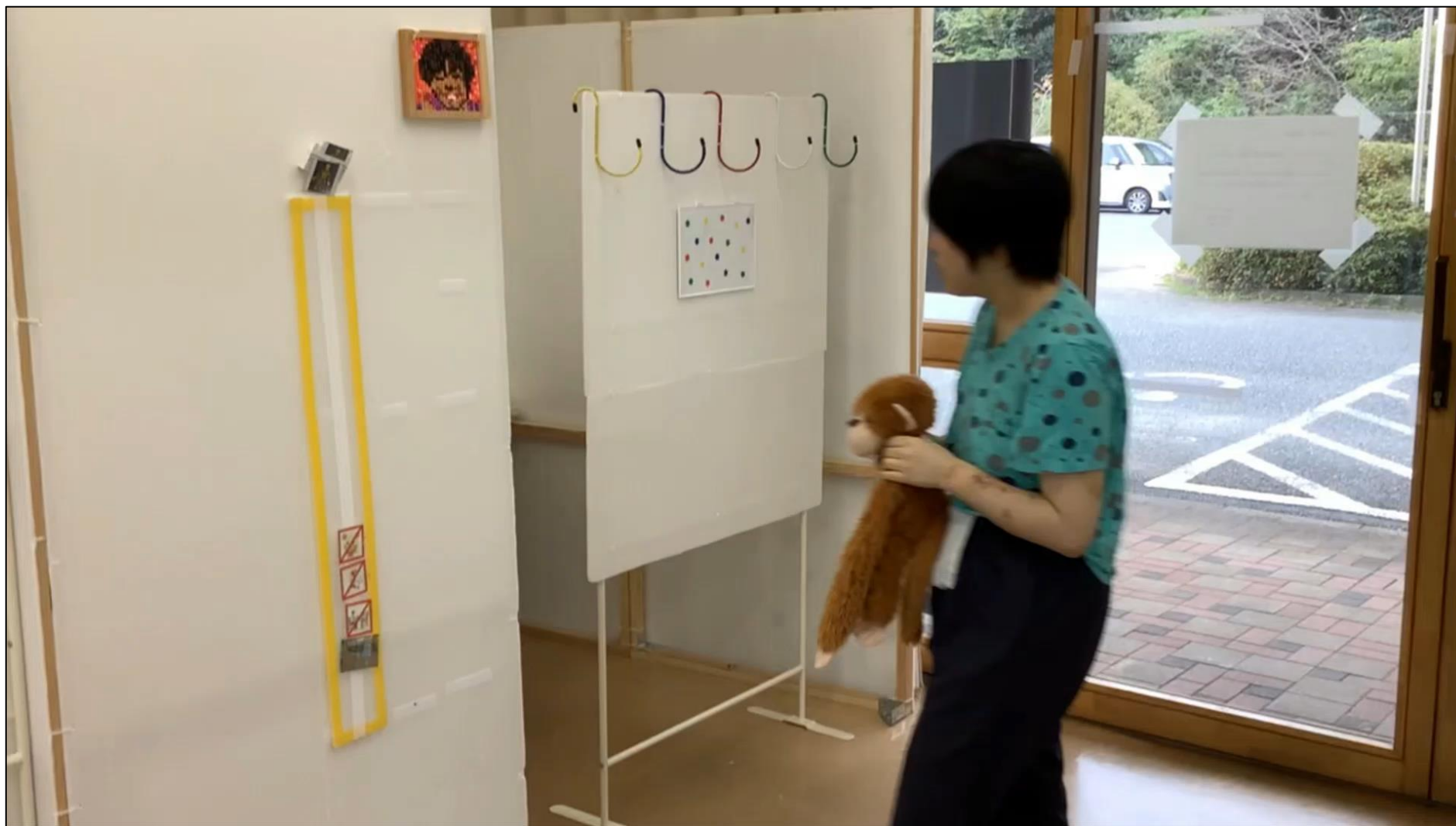


ウェルビーイング

- ・ 健康、自己効力感をもち、幸福に生活する



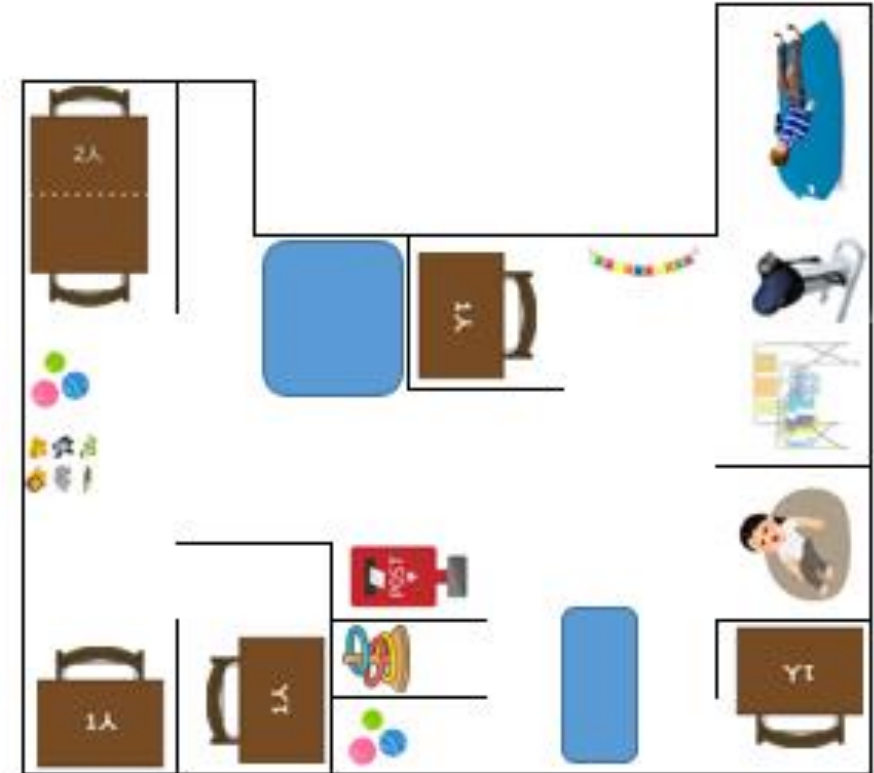
# 柔軟性：中止の受け入れ



# 般化：場所が変わってもスキルを使える

周囲の刺激を抑えた会議室での一人に対する集中支援から、他のご利用者2名と同じ活動場所に移動しました。

初日は戸惑いもありましたが、会議室と同じ伝え方をすることによって崩れることなく活動を行っています。



# 終わりに

強度行動障害のある人は激しい行動に焦点が当たってしまいますが、ご本人にとっても行動するには何かしらの理由があり、困っているのではないかと考えます。

強度行動障害のある人が強度行動障害の状態に陥ることなく、持つ力を発揮するには、ご本人の理解できる方法（=同じ伝え方）で困ることなく、先の見通しをもって安心して取り組み、成功体験を積み重ねることだと考えます。

事例で紹介させていただいたように、わかりやすい環境下での行動障害に変化が見られても、わかりにくい環境下では強度行動障害の状態に陥る事がみられます。

ご本人のスキルを活かせる環境の中で自立を促し、ご本人の生活がより豊かになるような取り組みをすすめていきたいと考えます。

ご清聴ありがとうございました。